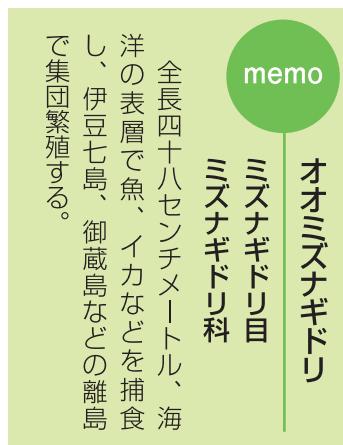




▲富津岬から見た風景 2013年9月19日 富津岬



▲オオミズナギドリの群れ 2013年9月19日 富津岬



©写真・文章の無断転載を禁じます。

©成田篤彦

秋晴れの富津岬。遠くにレインボウブリッジが見える。
沖に海鳥が浮いていた。
「ウミネコの群れ?」と双眼鏡でのぞいても種名はわからない。
「あ! 飛んだ」
ウミネコより大きい。つばさがグライダーに似ていた。
「オオミズナギドリ」だ。
彼らは舞い上がっては旋回し、海上飛び込む。海面で羽ばたきをしているのもいる。一つの群れが約二百羽、沖合に三群いた。
「何をしているのか?」と不思議に思った。

澄んだ海水が足元まで満ちてきた。すると、オオミズナギドリの群れが近づいてきた。彼らが群れている海面に真っ黒なかたまりが見えた。「イワシの大群」だ。

それが、海岸にやつてきた。するとオオミズナギドリの群れも

ウミネコより大きい。つばさがグライダーに似ていた。
「オオミズナギドリ」だ。
彼らは舞い上がっては旋回し、海上飛び込む。海面で羽ばたきをしているのもいる。一つの群れが約二百羽、沖合に三群いた。

「何をしているのか?」と不思議に思った。

澄んだ海水が足元まで満ちてきました。すると、オオミズナギドリの群れが近づいてきた。彼らが群れている海面に真っ黒なかたまりが見えた。「イワシの大群」だ。

それが、海岸にやつてきた。するとオオミズナギドリの群れも

かずさの博物誌
オオミズナギドリ
～大洋の海鳥～
文・写真／成田篤彦
2016.2.20

©成田篤彦

▲イワシの群れを捕食するオオミズナギドリ
二〇一三年九月十九日 富津岬



©成田篤彦

▲海洋を飛ぶオオミズナギドリ
二〇一三年九月十九日 富津岬

頭を首まで海水中に突っ込み、我先にイワシをついばんでいる。まるでイモ洗い状態だ。

「食事のマナーが悪いな」とあきれてしまった。

オオミズナギドリの背は茶色、腹側は雪のような白。つばさは幅広くて長く、先がとがっている。頭は青みがある。

くちばしの先が鉤のよう曲がっている。その上に管状の鼻孔があった。これが、ミズナギドリの仲間の特徴だ。昔見た、はく製のアホードリとよく似ていた。

大洋で生活する海鳥のがつちりとしたつばさ、管状の鼻孔など初めて見事な飛行であった。

彼らは、風を利用して、海面から高さ約二十メートルの範囲内を飛ぶ。また、海水面や浅い海中の小魚などを捕る。

オオミズナギドリは魚群に集まるので、漁師の方は彼らの飛ぶ群れを目印にして、漁を行っていたそうだ。

いずれにせよ、上総の海で大洋に生活する海鳥を岸辺から間近に見られるのは素晴らしい。